



題名: 食文化あふれる地域活性化

発表者氏名: 青葉心優、石垣翔悟、伊藤美萌

背景・目的

国際化が進み、外国に興味を持つ人が増えた今、外国の食文化を取り入れることで、地域活性化ができると考えた。

すでに分かっていること

韓国ブームで若者が多く集まる東京 新大久保のように、外国の文化を取り入れることで、にぎわっている地域がある。

仮説

酒田に外国の食文化を楽しめる場所を作ること、多くの人を呼び込み、酒田市を活性化することができる。

研究の方法

①国際交流サロンのイベントに参加した市民や酒田東高校の生徒を対象にアンケートを取り、酒田における国際交流の状況を調査する。

②国際交流まつりに参加した外国人へのインタビューやタイ料理の「サパーンマイ」、インド料理の「シタ」の訪問を通じて、外国の食文化に対する考えを調査する。

結果

①外国の食文化や料理(特にアジア)に対して興味関心がある人は多い。

得られる情報が少ないため、実際に店を訪れる機会はあまりない。

②外国料理の店に訪れる客は、女性の割合が大きい。

酒田で暮らす外国の方も自国の文化を広めたいと考えている。

結論

外国の食文化は酒田市の活性化につながるが、外国料理の店などの知名度が低いことで妨げられている。

考察

多くの人に関心を寄せるアジアの料理を提供する店が複数集まった場所があれば、足を運びやすく、市の活性化につながると考えられる。

今後の展望

・国際交流サロンさんや、酒田市役所、地域の方々と協力してアジア料理を楽しめるイベントを催す。

・外国料理店の知名度をあげるための活動を考えていきたい。